

## 第1章 香川大学学生生活実態調査について

### (1) 調査の目的

香川大学学生生活実態調査は、香川大学の学生がどのような条件のもとで、どのような意識をもって学生生活を営んでいるのかといった、学生生活の実態を把握し、大学の諸施策の基礎的資料として活用することを目的としています。この調査は、1986年（昭和61年）の第1回以来これまでに10回実施されており、それぞれ報告書にまとめられています。

第1回調査	1986年（昭和61年）	第2回調査	1989年（平成元年）
第3回調査	1992年（平成4年）	第4回調査	1994年（平成6年）
第5回調査	1996年（平成8年）	第6回調査	1998年（平成10年）
第7回調査	2000年（平成12年）	第8回調査	2002年（平成14年）
第9回調査	2004年（平成16年）	第10回調査	2006年（平成18年）

この調査は、第1回から第3回まではおおむね3年ごとに実施してきましたが、社会人入学、外国人留学生の増加等多様化する学生や、急速に変化する大学の教育環境を明確に把握するため、第4回からは、2年ごとに実施することとしました。さらに、本年度からは毎年実施し、更に充実させていく予定です。

調査内容についても、経済状況などの基礎的な調査と、その時々におけるトピックス的なテーマに関する調査を、加えて実施することとしました。

今回（第11回）は、トピックス的なテーマに関する調査として、福利厚生施設に関する調査を実施しました。

### (2) 調査実施期間

平成21年2月16日～3月31日

### (3) 調査の対象と方法

調査に当たっては、前回まで、無作為抽出法を採用し、学生名簿から、全学生の1/5を無作為にピックアップし、調査表を配布・回収して行ってきました。

今回からは実施の省力化を図るため、前回までの紙による調査方法に変えて電子化（ホームページのアドレスから入力）することとし、学部学生全員（夜間主コース学生を除く）を調査対象としました。また、アンケート回答者の中から、100名に対して図書カードを配布しました。学部別、性別の回収数、回収率は、次頁に示すとおりです。

学部別、性別の回答者数及び回答率

区 分		学生数 (人)	回答者数 (人)	回答率 (%)
学 部 別	教 育 学 部	923	120	13.0
	法 学 部	674	53	7.9
	経 済 学 部	1,275	93	7.3
	医学部医学科	580	66	11.4
	医学部看護学科	257	22	8.6
	工 学 部	1,180	170	14.4
	農 学 部	679	59	8.7
学 部 別 合 計		5,568	583	10.5
性 別	男 子	3,338	337	10.1
	女 子	2,230	242	10.9
性 別 合 計		5,568	579	10.4

※ 法学部及び経済学部の夜間主コースの学生は除いています。

#### (4) 調査の内容及び項目

調査項目の設定に当たっては、経済状況などの基礎的な事項に加え、今回はトピックス事項として、福利厚生施設に関する調査を実施しました。

設定項目は、「Ⅰ. 基本的事項について」「Ⅱ. キャンパスライフについて」「Ⅲ. 個人生活について」の3つに分類しています。その分類のもとで構成された質問内容及び質問数は、以下のとおりです。合計で67問になっています。

- Ⅰ. 基本的事項 : 属性 (4問)、通学方法 (3問)、経済状況 (3問)
- Ⅱ. キャンパスライフ : 学業 (7問)、課外活動 (5問)、  
就職 (8問)、学生のキャリア意識 (2問)、  
福利厚生施設 (8問)
- Ⅲ. 個人生活 : 住居 (4問)、健康 (12問)、アルバイト (6問)、  
ボランティア活動 (5問)

#### (5) 集計と報告書の作成

入力された調査票はリアルタイムで集計を行い、ホームページで随時集計結果を確認できるようにしました。

さらに、報告書の作成に当たっては、学生生活実態調査部会構成員が分担執筆し、一目で理解できるように、質問ごとに円グラフを掲載しました。なお、学部ごとの詳細についてはホームページを参照してください。

また、巻末には自由記述への回答を掲載しました。